

「ヒヤリ地図」作成にあたって、安芸高田・三次地区で263件のヒヤリ・ハット箇所に関する貴重な体験情報やご意見をお寄せいただきました。「ヒヤリ・ハット体験に関するアンケート調査」へのご回答、ご協力ありがとうございました。

第1位 吉田総合病院付近
16件

理由 ○沿道からの出入りが多い
○見通しが悪い

事例 ●路地や沿道から国道54号への進入車両と接触しそうになる
●路地から飛び出した車両や二輪車と接触しそうになる

スーパー 酒屋 車屋 携帯ショップ
本屋 家具屋
吉田総合病院
自転車・車の飛び出し

第1位 安芸高田消防署前交差点
16件

理由 ○沿道からの出入りが多い
○相手や自分の不注意

事例 ●横断中の自転車と交差道路からの左折車両が接触しそうになる
●交差点手前で前走車を衝突しそうになる

自転車との接触
追突
銀行 消防署

第3位 可愛橋北詰交差点付近
14件

理由 ○歩道がない、狭い
○沿道からの出入りが多い

事例 ●路肩を走行している自転車と接触しそうになる
●交差道路からの車両と出合頭に衝突しそうになる

出会い頭
自転車と接触
路肩が狭く自転車と接触

第4位 川本交差点付近
10件

理由 ○見通しが悪い
○沿道からの出入りが多い
○歩道がない、狭い

事例 ●路地や沿道からの車両と出合頭に衝突しそうになる
●歩道が途切れたところで自転車と接触しそうになる

出会い頭
路肩が狭い
歩道が切れて車道に出た自転車と接触

大和重工

第5位 甲立トンネル付近
8件

理由 ○見通しが悪い

事例 ●対向車と接触しそうになる
●交差道路からの車両と出合頭に衝突しそうになる

対向車と接触
出会い頭

ヒヤリ地図 地域の皆様からおいただいた「ヒヤリ・ハット体験」をもとに、事故の発生は少ないものの「体験」の多い地点や、その原因となる道路構造上の問題など、皆様にもご活用いただけるよう「ヒヤリ地図」としてまとめました。

是非この地図に記載されている「ヒヤリ・ハット箇所」をご確認下さい。そして通行の際は、「ヒヤリ・ハット体験」を参考に十分ご注意ください。

「ヒヤリ・ハット体験」とは
交通事故には至らないものの、一歩間違えれば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。

第6位 吉田町常友付近
7件

理由 ○相手の不注意

事例 ●対向の大型車と接触しそうになる
●追い越された車両と接触しそうになる

自転車を追い越そうとして自転車と接触
自転車を追い越して対向車と接触

ガソリンスタンド ファッションセンター

第6位 吉田町常友付近
7件

理由 ○歩道がない、狭い

事例 ●追い越し時に自転車と接触しそうになる
●交差道路の飛び出し車両と接触しそうになる

路肩が狭く自転車と接触
車の飛び出し
車を追い越して自転車と接触

吉田中学校

第6位 三次市青河町付近
7件

理由 ○見通しが悪い

事例 ●県道から国道54号への進入時の出会い頭

出会い頭
横断歩道橋

第9位 吉田小学校前付近
6件

理由 ○見通しが悪い
○沿道からの出入りが多い

事例 ●路地や沿道から国道54号への進入時の出会い頭
●国道54号から商業施設にはいるとき、歩行者と接触しそうになる

歩行者と接触
出会い頭

コンビニエンスストア 吉田小学校

第10位 刈田小学校付近
4件

理由 ○見通しが悪い
○歩道がない、狭い

事例 ●路地や沿道から国道54号への進入時の出会い頭
●歩道が狭く、雨の日に傘をさした小学生が1列で通学している時、非常に気を要する

出会い頭
出会い頭
通学している小学生と接触

刈田小学校



みなさんのヒヤリ・ハット体験による交通安全マップ

ヒヤリ地図

ヒヤリマップ作成の目的

国道を管理する国土交通省では、誰もが安全に安心して利用できる国道を目指し、交通事故を抑制するための交通安全対策に取り組んでいます。

今後さらに進める交通安全対策に役立てることを目的として、管理する国道を対象に、日頃から道路を利用されている地域のみなさまから「ヒヤリ・ハット体験」についてお伺いするアンケート調査を実施しました。

ヒヤリ・ハット体験とは

交通事故には至らないものの、一歩間違えば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。

今回の調査で皆様からお寄せいただいた「ヒヤリ・ハット体験」に関する情報は、今後の交通安全対策を進める際の参考にさせていただくとともに、地域の皆様の安全な道路利用にもご活用頂けるよう「ヒヤリマップ」としてとりまとめました。

ヒヤリマップの活用方法

お出かけ前に、目的地までのルート上の「ヒヤリ・ハット箇所」の有無をご確認ください。「ヒヤリ・ハット箇所」を通行する際は、「ヒヤリ・ハット体験」を参考に十分注意して走行して下さい。

地域や職場、学校などで交通安全活動等を行う際、この「ヒヤリマップ」の情報を関係者の方と共有することにより、交通安全の向上に役立てて下さい。

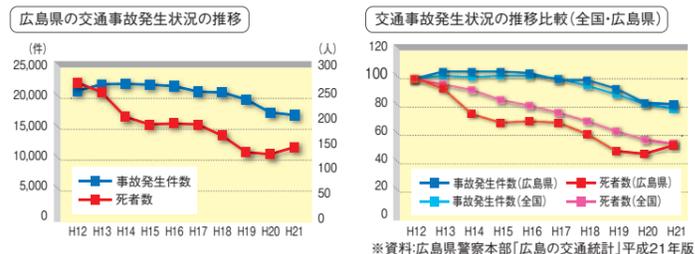
〈ヒヤリマップ・アンケートに関するお問い合わせ先〉

国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所
〒728-0011 三次市十日市西6丁目2番1号
TEL (0824)-63-4121 FAX (0824)-63-3094 E-mail: info-miyoshi@cgr.mlit.go.jp

広島県下の交通事故発生状況

交通事故発生状況

- 平成21年における広島県下の交通事故発生件数は年間約17,000件。10年前と比べて約2割程度減少しています。
- 広島県下の交通事故死者数は年間142人。平成12年と比べて半減しているものの、年間100人を超える尊い命が交通事故で失われています。



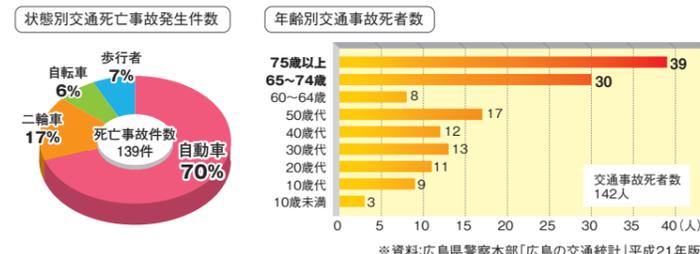
交通事故類型

- 類型別の交通事故発生状況を見ると、車両相互が87%と最も高く、人対車両は9%、車両単独は4%となっています。
- 車両相互事故の内訳では、追突(5,584件)、出会い頭(4,477件)が多くなっています。



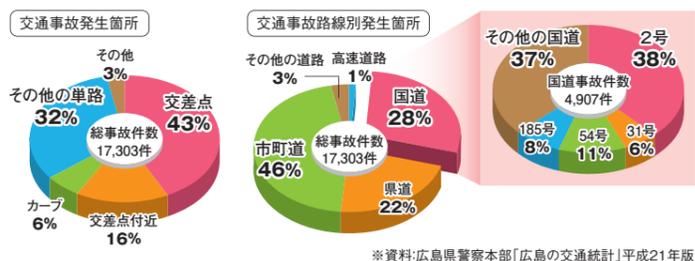
死亡事故の発生状況

- 状態別の交通死亡事故発生件数を見ると、自動車乗車中が70%と最も高く、二輪車が17%、歩行者が7%、自転車6%となっています。
- 年齢別の交通事故死者数は142人で、75歳以上が39人、65～74歳が30人と65歳以上の方が約5割を占めています。



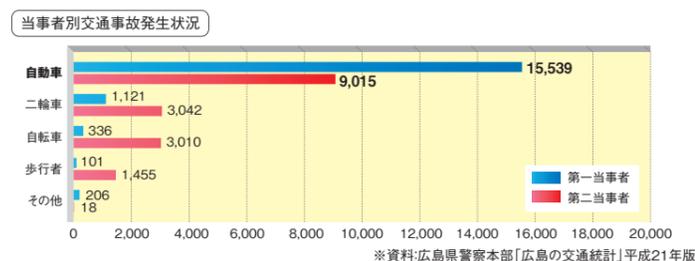
交通事故発生箇所

- 交通事故発生箇所では、交差点が43%と最も高く、次いで「その他の単路」が32%となっています。
- 交通事故発生路線では、市町道が46%と最も多く、国道が28%となっています。また、国道の中では国道2号が38%と最も多くなっています。



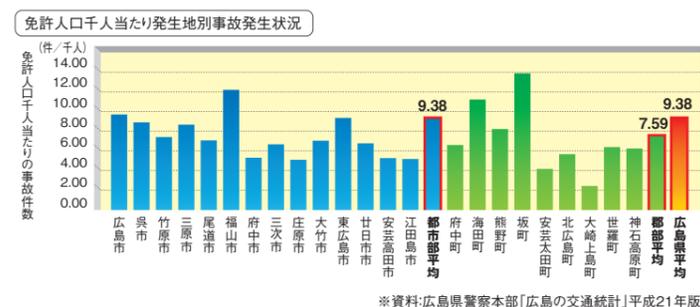
当事者別交通事故発生状況

- 第一当事者で最も多いのは乗用車の15,539件で、二輪車の1,121件がこれに続いています。
- 第二当事者で最も多いのも乗用車の9,015件で、以下、二輪車が3,042件、自転車が3,010件となっています。



免許人口千人当たりの発生地別交通事故件数の割合

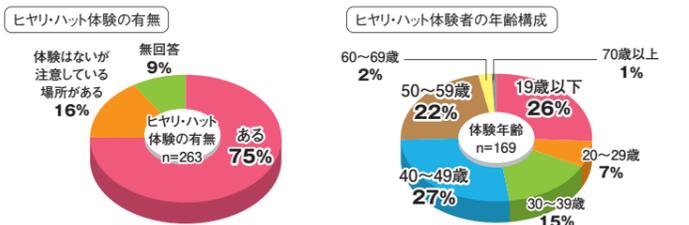
- 免許人口千人当たりの事故件数が多い市町は、都市部が福山市、郡部は坂町、海田町が10件を上回っています。



交通安全アンケート(ヒヤリ体験アンケート)の調査結果

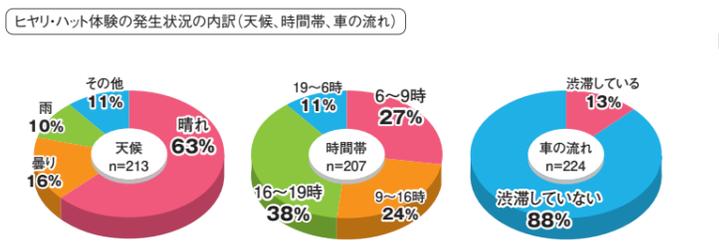
ヒヤリ・ハット体験の有無と年齢構成

- 交通安全アンケートに回答していただいた263件のうち75%の方が、ヒヤリ・ハット体験をされています。
- ヒヤリ・ハット体験者の年齢層別では、19歳以下、40歳代、50歳代が、それぞれ20%以上と高くなっています。



ヒヤリ・ハット体験の状況

- 天候別では、「晴れ」が63%を占めています。
- 時間帯では、「16～19時」が38%、「6～9時」が27%で、朝・夕が高くなっています。
- 車の流れでは、「渋滞していない」時のヒヤリ・ハットが全体の88%を占めています。



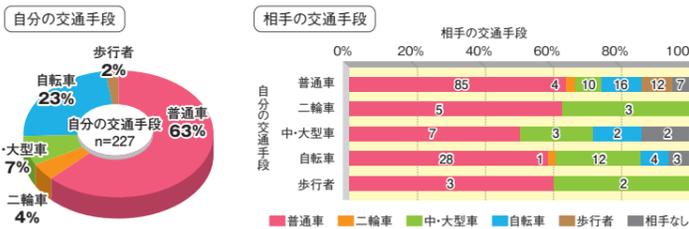
ヒヤリ・ハット体験の原因と具体的な内容

- ヒヤリ・ハット体験の原因では、「道路の構造や状況、周辺環境」が55%と最も高く、次いで、「相手の不注意」が32%となっています。
- 原因の具体的な内容としては、「見通しが悪い」が41人、「歩道がない、狭い」が38人と多くなっています。



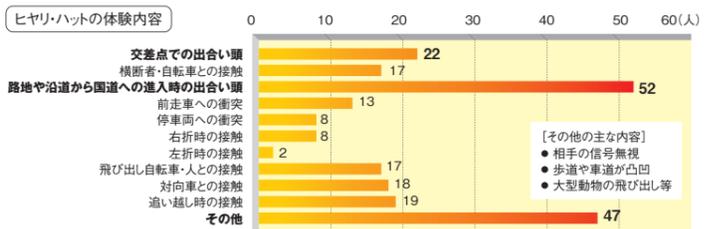
利用交通手段

- ヒヤリ・ハット体験時の自分の交通手段は普通車が63%と最も高く、次いで自転車の23%となっています。
- 相手の交通手段は、自分の交通手段に関わらず普通車が約60%を占めていますが、二輪車・自転車・歩行者では中・大型車にヒヤリ・ハット体験をしています。



ヒヤリ・ハットの体験内容(起こりそうになった内容)

- ヒヤリ・ハットの体験内容では、「路地や沿道から国道への進入時の出会い頭」が52人と最も多く、次いで、「その他」が47人、「交差点での出会い頭」が22人となっています。
- その他の主な内容は、「相手の信号無視」、「歩道や車道が凸凹」、「大型動物の飛び出し」となっています。



道路行政に対するご意見・ご要望

- 道路行政に対するご意見・ご要望では、「歩道・自転車道を整備・拡幅してほしい」、「道路清掃、草刈、除雪を定期的の実施してほしい」が上位を占めています。



みなさんのヒヤリ・ハット体験を参考に交通事故対策を進めていきます!

1件の重大事故発生背景には、その何百倍ものヒヤリ・ハットが!

広島県では、139件の死亡事故(平成21年実績)を含む重大事故が発生していますが、一般的に、重大事故の発生件数は交通事故全体の中では氷山の一角に過ぎず、その背景には、何十倍もの軽傷事故と、何百倍ものヒヤリ・ハット体験が発生しているといわれています。

事故多発箇所主体の対策から、ヒヤリ・ハット箇所にも着目した対策に!

これまでの交通安全対策は、死傷事故が多発している箇所(事故率が高い箇所)に着目した対策が主体でした。これらの対策の結果、死者数の減少などの事故削減効果が現れつつあります。しかしながら、道路利用者が危険を感じていても事故が発生していない箇所については、危険箇所として着目されていないという問題がありました。重大事故を未然に防ぐには、日頃から不安全な状態や行為を認識し、ヒヤリ・ハットの段階で地道に対策を考え、実行していくことが重要です。そのため、今後の交通安全対策では、事故多発箇所及び対策に加え、ヒヤリ・ハット箇所に着目した対策も合わせて進めていく予定です。

